

ノーベル平和賞 カイラシュ・サティヤルティ氏 招へいプログラム
～SDGs 達成に向け児童労働の解決を目指すアドボカシー活動～
報告書

2016年7月31日
特定非営利活動法人 ACE

1. プログラムの目的

2015年9月に国連「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals, 以下 SDGs)」が採択され、2016年1月より同目標が発効する。17のゴールと169のターゲットからなるこの目標は2030年までに解決するグローバル課題を明示し、パートナーシップを通じ世界を変革させることを目的としている。そのゴール8のターゲット7には、「強制労働、現代の奴隸、人身取引を撤廃するための即時の効果的な措置をとり、子ども兵士の採用と使用を含む最悪の形態の児童労働の禁止及び撤廃を確保し、また2025年までにすべての形態の児童労働を終焉させる。」と明記されている。

SDGsのこれらのゴールやターゲットの達成に向けて、世界では様々な国際機関や団体が連携を組んで戦略を練っている。例えば、子どもに対する暴力（ターゲット16.2）については、国際機関としてUNICEFが中心となりながら、他の国際機関と複数の国際NGOと共にグローバルなパートナーシップの立ち上げを表明し、戦略ペーパーのドラフトが発表されている。これには既に米国政府もプロジェクト立ち上げ資金を提供し、具体的に動き出している。しかし、ターゲット8.7については、国際労働機関（ILO）の理事会においても主体的な取り組みが表明されておらず、主導している団体がなく、具体的なネットワークができていない。

そこで、これまで20年以上にわたり世界の児童労働問題の解決のために取り組み、2014年10月にマララ・ユスフザイさんと共にノーベル平和賞を同時受賞したカイラシュ・サティヤルティ氏と、関係する機関や団体を日本に招いて話し合う場を設け、ターゲット8.7の達成に向けたグローバルな対話と戦略づくりが進むきっかけをつくる。あわせて、SDGsの達成には、企業や消費者のエンゲージメントや政府のリーダーシップが重要であることから、これらステークホルダーとの対話の機会も設け、日本のステークホルダーの政治的意志や行動を促していく。これらを通じて「2025年までにすべての形態の児童労働を終焉させる」という目標達成をめざす。

2. 主な活動内容・スケジュール

日時	活動内容	実施場所
5月13日（金） 9:30～12:30	円卓会議 「2025年までに児童労働を終焉させる（SDG Target8.7）戦略円卓会議」	庭のホテル (東京都千代田区)
5月14日（土）	G7教育大臣会合シンポジウム 基調講演 "The Power of Education"	倉敷アイビースクエア (岡山県倉敷市)
5月14日（土） 16:00～19:00	公開シンポジウム 「私からはじまる児童労働のない未来～ノーベル平和賞受賞者カイラ・シュさんの問題解決の方法とは？～」	文京学院大学 本郷キャンパス 仁愛ホール (東京都文京区)
5月15日（日） 10:15～11:45	親子イベント 「被災地から世界につながろう！ 親子で描く、これからの社会」	GRAイチゴワールド (宮城県山元町)
5月15日（日） 14:00～15:30	講演会 「宮城学院創立130周年記念ホームカミングデー講演会」	宮城学院女子大学 講堂 (宮城県仙台市)
5月15日（日） 18:30～20:00	チャリティパーティー 「ノーベル平和賞受賞者カイラ・シュ・サティヤルティ氏来日記念チャリティパーティー」	帝国ホテル (東京都中央区)
5月16日（月） 16:00～17:00	国会議員との懇談会 「カイラ・シュ・サティヤルティ氏と教育・児童労働を語る会」	衆議院第二議員会館 多目的室（東京都）
5月16日（月） 19:00～21:00	「グリラシネマ」～『THE true cost』	代官山カラート71 (東京都)
5月16日（月） 20:00～22:00	「値段のないレストラン」	表参道バンブー (東京都港区)

※網掛け部分が本助成金にてご支援いただいた活動

○カイラ・シュ・サティヤルティ氏について

1981年から長年児童労働問題に取り組み、救出やリハビリ施設を運営するインドのNGO、BBA（子ども時代を救え運動）を創設。これまで過酷な労働から解放した子どもの数は85,000人に上る。児童労働に反対するグローバルマーチの構想を提案、1998年に5大陸で市民を巻き込みマーチを実現、ILOでの最悪の形態の児童労働条約の採択につなげた。教育のためのグローバルキャンペーンの創設者として、各国の教育支援活動員にも成功。児童労働のないカーペットのラベル“Good Weave”を創設し、消費者の意識啓発にも努めてきた。2014年、マララ・ユスザイさんと共に「子どもや若者の抑圧、またすべての子どもの教育を受ける権利に対する闘い」の功績を認められ、ノーベル平和賞を受賞。



3. 助成いただいた活動の報告

3-1 公開シンポジウム「私からはじまる児童労働のない未来～ノーベル平和賞受賞者カイラ・ラシュさんの問題解決の方法とは？～」

- (1) 日時：2016年5月14日（土）16時00分～19時00分
- (2) 場所：文京学院大学 本郷キャンパス 仁愛ホール（東京都文京区）
- (3) 参加者数：685人（スタッフ含む）
- (4) プログラム内容：日英同時通訳あり
 - ① カイラ・ラシュ・サティヤルティ氏による基調講演
 - ② カイラ・ラシュさんへの質問コーナー（会場からの質問に答える）
 - ③ パネルトーク「消費者、学生、企業、市民社会が、児童労働のない未来にできること」
パネリスト カイラ・ラシュ・サティヤルティ氏
鎌田 安里紗氏（慶應義塾大学大学院在学）
ピーターD. ピーダーセン氏（株式会社イースクエア共同創業者）
岩附 由香（特定非営利活動法人ACE代表、CL-Net事務局長）
モデレーター 萩内 ありさ氏（お茶の水女子大学付属高等学校教諭）
 - ④ 「児童労働にレッドカード！」記念撮影！
 - ⑤
- (5) 共催：特定非営利活動法人ACE、児童労働ネットワーク、NGO-労働組合国際協働フォーラム 児童労働グループ
後援：外務省、文部科学省、厚生労働省、独立行政法人国際協力機構、ILO駐日事務所、UNDP駐日代表事務所、一般社団法人グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン、特定非営利活動法人国際協力NGOセンター、日本ILO協議会、日本労働組合総連合会
助成：公益財団法人庭野平和財団、国際交流基金日米センター
協力：世界の人びとのためのJICA基金

(6) 当日の様子

当日は定員 55 名を大幅に超える 650 人以上の方にご来場いただき、カイラシュさんの講演やパネルトークを通して、児童労働のない未来のために私たちが出来る事を考えていただきました。また、会場ロビーでは NGO 活動紹介デスクや児童労働に関する展示を行い、こちらも開会前・閉会後ともに多くの人でにぎわいました。



○カイラシュ氏の基調講演

はじめに、"Creating Solutions to the social issues" 「社会問題の解決策のつくり方」と題して、カイラシュ・サティヤルティさんによる基調講演が行われました。来場者の半数以上が学生だったため、カイラシュ氏は会場にいた多くの若者世代に向けて、「皆さんには夢があり、それは幸せなことです。しかし世界にはそれができない（夢をもてない）子どもたちがいます。」と訴えかけました。そして、問題解決のために何かしたいがなかなか行動を起こせずにいるわたしたち一人ひとりに向けて、3つの D<Dream, Discover, Do> という希望に満ちたキーワードを教えてくれました。

Dream : 何かを変えたいなら大きな夢を持とう

Discover : 自らの能力、力を見いだそう

Do : 今から行動を起こそう

私たちの世界は繋がっていて、児童労働はグローバルな問題であること、そしてわたしたちが行動を起こすことが大切で意義あることであり、この先若い世代の人々には特に、心を開いてこの世界を守っていってほしいということを語りかけてくれました。そして最後に 3 つの D<Dream, Discover, Do> を会場の皆さんと一緒に唱え、「日本の若い皆さん、世界のリーダーになってください」という言葉でスピーチは締めくくられました。

※カイラシュさんの講演要旨は東京新聞に掲載されました（2016年5月15日）

<http://www.tokyo-np.co.jp/article/national/list/201605/CK2016051502000146.html>

○パネルトーク～

「消費者、学生、企業、市民社会が児童労働のない未来にできること」というテーマでパネルトークを行いました。このトークにはカイラ・シュさんに加えて、消費者の立場としてお茶の水女子大学付属高校教諭の葭内ありさん、学生の立場からは慶應義塾大学院在学でモデルの鎌田安里紗さん、企業の立場には株式会社イースクエアのピーター・D・ピーダーセンさんをお招きし、市民社会としてはACE代表の岩附が登壇しました。児童労働を終わらせるために、それぞれの立場でできるアクションにはどのようなものがあるかについて、熱いトークが行われました。



シンポジウムの最後には、登壇者と会場の皆さん全員で、「児童労働にレッドカード！」の記念撮影を行いました。それぞれがカードと共に、児童労働に反対するという大きな意志を持ち、会場中の想いが一つになった瞬間でした。

○参加者からの感想

- ・行動をおこすことの大切さを知った（学生、女性）
- ・勇気をもって一步踏み出したい（学生、女性）
- ・自分と同じ年代の子が働くのはかわいそうだと思った（小学生、女の子）
- ・子どもが酷使されている状況、消費という行為の中で自分もその状況に加担しているかもしれないということに恐れ・くやしさを感じた（学生、女性）
- ・世界で起きている「児童労働」について、日本でもっと報道し現実を知る必要がある（会社員、女性）



参加者全員で「児童労働にレッドカード！」

3-2 親子イベント「被災地から世界につながろう！親子で描く、これからの社会」

- (1) 日時：2016年5月15日（日）10：15～11：45
- (2) 場所：GRAイチゴワールド（宮城県亘理郡山元町）
- (3) 参加者数：80人（幼児3名、小学生37名、中学生3名、おとな27名）
- (4) プログラム内容：
 - ⑥ ビデオ上映（カイラシュさんの活動紹介）
 - ⑦ カイラシュさんとGRA代表岩佐大輝さんのトーク（※逐次通訳あり）
 - ・カイラシュさんからの児童労働についてのお話し
 - ・岩佐さんから東日本大震災後のGRAの取り組み、山元町のイチゴ復活のお話
 - ・これからの世界についてのお話
 - ⑧ ワークショップ「これからの未来を描こう！」
 - ⑨ 全員で記念撮影！（※イベント終了後、参加者はイチゴ狩りをして解散）
- (5) 主催：特定非営利活動法人ACE、
協力：株式会社GRA、山元町教育委員会 生涯学習課
助成：公益財団法人庭野平和財団
- (6) 当日の様子

まずはイベントの前に、東日本大震災で被災した中浜小学校の跡地の視察を行いました。山元町生涯学習課の斎藤三郎課長の案内で、震災当日の様子について話を聞きました。カイラシュ氏は子どもたちがどうなったかをとても気にしていましたが、学校の先生方や子どもたちが力を合わせた結果、この学校に在籍していた小学生や先生、また近所から避難してきていた人々すべてが津波に飲まれることなく助かったことを聞いて安堵していました。それと同時に、校舎の建物が強靭な作りをしていたとともに、人々が強い心を持っていたことにとても関心していました。



その後、GRAに会場を移し、会場に集まった子どもたちとおとの参加者とともに交流イベントを行いました。カイラシュさんの活動を紹介するビデオを見た後に、震災後に山元町でイチゴ産業の復興に尽力してきた、株式会社GRA代表の岩佐大輝さんが復興までの道のりをお話し、それからカイラシュさんとのトークを行いました。



カイラシュさんはトークの中で、「山元町の子どもたちや住民のみなさんがとても美しく、そしてこの町にはすでに魂の強さが根付いていること」を称えました。そして「その強さを自分や家族だけのために使うのではなく、これからは世界のために使ってほしい」、「世

界はつながっていてみな家族のようなもの。だから世界中すべての子どもたちが学校に自由に通えるようにみなさんも考えてほしい」というメッセージを伝えました。

トークの後には、親子やグループで「自分たちが大切にしているもの」を絵にかいてもらうワークショップを行い、「家族」「いちご」「いのち」など大切なものを共有しました。最後はカイラシュさん、岩佐さんと参加者が全員で、記念撮影を行いました。



※カイラシュさんとGRA岩佐さんのトークの全文は、Yahoo!ニュースに掲載されました

<http://bylines.news.yahoo.co.jp/iwasahiroki/20160520-00057889/> (2016年5月20日)



※山元町とACEとのつながりについて

ACEは「世界中のすべての子どもの権利が守られ、子どもが希望を持って安心して暮らせる社会の実現」というビジョンを掲げて活動するNPO法人として、日本の子どもの権利を守ることも自分たちの使命であると考え、東日本大震災発生後、被災地域の子どもたちに対して、私たちにできるかたちで復興支援をしていくことを決め、2011年5月より、宮城県亘理郡山元町の「山元町災害ボランティアセンター」(その後：やまもと復興応援センター)へスタッフを交代で派遣し、運営支援などを行ってきました。

2011年6月からは仮設住宅の支援チームに入り、社会福祉協議会の生活相談員と一緒に仮設住宅への物資の配布や見回り活動などを行ったほか、仮設住宅の各集会所で、2011年夏に「かき氷祭り」を、2011年から2012年の冬にかけて「おしるこ祭り」を開催するなど、仮

設住宅に住む方々の交流の場、子どもたちの遊びの場も提供してきました。

子どもを対象としたワークショップも開催し、家族や友人と離れて暮らしたり、狭い仮設住宅でストレスを感じたりする気持ちを共有してもらったり、「大切なモノ」や「山元町の好きなところ」などの絵も描いてもらったりすることを通じて、子どもたちが震災を受けての想いや経験を分かち合うことで、子ども自身が持つ「心の傷を癒す力」を引き出すきっかけづくりも行いました。

現在は、仮設住宅に暮らす女性たちが手作りした「イチゴタワシ」や携帯ストラップ「いちごのきもち」などをACEオンラインショップで販売することで、被災地のみなさんの支援を続けています。

3-3 国会議員との懇談会「カイラシュ・サティヤルティ氏と教育・児童労働を語る会」

- (1) 日時：2016年5月16日（月）16:00～17:00
- (2) 場所：衆議院第二議員会館多目的室
- (3) 参加者数：53人（うち議員12名、議員代理12名、その他NGO関係者）
- (4) プログラム内容：
 - ① カイラシュ氏よりスピーチ
 - ② 質疑応答、議論
- (5) 主催：児童労働ネットワーク、教育協力NGOネットワーク
協力：（特活）チャイルドライン支援センター
後援：アムネスティ議員連盟、ILO議員連盟、チャイルドライン支援議員連盟
- (6) 当日の様子

カイラシュさんは「児童労働をなくすためには、政治的意を持つことが大事だ」と常々言っていますが、今回の議員懇談会は、そのことを改めて思い起こす機会となりました。

カイラシュさんはスピーチの中で、「日本は児童労働問題で先頭に立つことが可能である」ことを何度も強調し、そしてそのためには「議員などの政治にかかわる人々の意識と行動が大切である」と訴えました。そして、「最悪の形態の児童労働の撤廃条約を最初に批准した国のひとつとして、危険な労働を世界からなくすためのリーダーシップをとってほしい」、「SDGsで教育にかかる目標が掲げられたので、日本としても教育向けのODAを増やすなど、積極的な役割を果たしてほしい」、「企業のなどのサプライチェーンに関するルール作りを積極的に行ってほしい」という、主に3つの要望を伝えました。カイラシュさんは何度も、日本の役割の重要性、日本が「違いを生み出せる」力を持っていること、そしてそれに伴う責任があることを強調しました。

カイラシュさんはスピーチの最後に、山火事を消すために小さなくちばしに水を含んで火を消そうとするハチドリの話をしました。それに対してある議員が、「わたしたちは人より大きなくちばしを持っていると思う。私たちができる事をやっていきたい」と発言したことが印象的でした。懇談会の終了時には、カイラシュさんと参加した議員やNGOのメンバーと一緒に、「児童労働に反対」の意思を示すレッドカードを掲げて記念撮影をしました。



4. 活動の成果

（1） 日本国内において児童労働に対する認知を高めることができた

今回の事業を通じて、4日間で9つのイベントを実施し、合計で2000人以上が参加しました。また、テレビ、新聞、雑誌、インターネットを含め40件以上のメディア掲載があり（来日期間以降の掲載分も含む）、イベント参加者以外にも多くの人々に児童労働の問題について伝えることができました。

（2） 政府、ビジネスセクター、市民など、異なるステークホルダーに対して、児童労働解決に向けた「政治的意志」を高めることができた

今回の事業では、幅広い層にアプローチすることが実現し、一般市民、消費者、企業、政治家など、異なるステークホルダーに対して、児童労働問題の解決のために行動を起こしていくことの大切さを伝えることができました。

5月13日の円卓会議においては、海外からのゲストに加え、日本の外務省や厚生労働省、経団連や企業関係者、NGOが議論することで、それぞれのステークホルダーが児童労働撤廃のために果たせる役割を確認することができました。また記念パーティには塩崎厚生労働大臣ほか5人の議員が出席し、その翌日には馳文部科学大臣にも面会し、日本が児童労働に取り組むことの重要性を直接伝えることができました。5月16日の議員懇談会においても、日本が児童労働や子どもの教育に積極的に取り組むことへの要望を伝え、参加した議員の中から前向きに取り組んでいきたいとの発言を得ることができました。

5月14日のシンポジウムは、大学生など若者の参加が多いことが特徴でした。「Dream（夢を大きく持つこと）、Discover（自分の力に気づくこと）、Do（行動を起こすこと）」の大切さや、特に消費者には児童労働問題を解決できる力がある、というカイラシュ氏のメッセージが多くの若者に伝わりました。アンケートにも、「自分自身も勇気をもって行動を起こしたい」という前向きな意見が多くみられました。

（3） SDGs. 8.7を達成するための、グローバルな人的・組織的ネットワークを形成することができた

今回の事業は、カイラシュ氏が設立したカイラシュ・サティヤルティ子ども財団（本部：米国）や、児童労働に反対するグローバルマーチ（本部：インド）、児童労働連盟（本部：米国）からの協力を得ることで実現することができました。SDGs. 8.7の達成に向けて、今後さらに国際的な協調が必要になるため、児童労働問題に国際的に中心的に関わるこれらの団体との協力関係を作れたことで、今後ACEが国際レベルでさらに活動していく上での大きな足掛かりとなったと思います。

5. 今後の課題と展望

（1） 認知度の向上と支援の拡大

ACEとしては、今後「2025年までに世界の児童労働を終わらせる」というSDGs. 8.7の目標を達成するために、よりグローバルにインパクトをもたらせる活動を行っていく

ことを考えていますが、そのためには活動を支える財源が必要となります。今後につながる団体への支援を今回の事業を通じて集めることを目標としていましたが、十分に獲得することができなかつたため、今後も支援の拡大には引き続き取り組んでいく必要があります。また、児童労働に対する認知や関心についても、今回の事業を通じて関心を持った人たちに継続して関心を持ち続けてもらうためのアプローチや活動も必要であると考えています。

（2）ステークホルダーによるコミットメントの実現

今回の事業の成果の一つは政治家への児童労働への取り組みの重要性を伝えることができたことでした。今後は日本政府による児童労働への取り組みや、子どもへの支援が強化されるよう、ACE が事務局を務める児童労働ネットワークなどのNGO のネットワークを活用して提言活動を継続し、具体的なコミットメントを引き出していくことが必要となります。

（3）SDGs. 8. 7 を達成するための、国際ネットワークへの参加と活用

「2015 年までに世界の児童労働を終わらせる」という国際目標の達成に ACE として貢献できるよう、さらなる戦略を練り実行に移していくとともに、そのために「児童労働に反対するグローバルマーチ」のネットワークにより積極的に参加するとともに、SDGs. 8. 7 の達成のために結成されている、国際機関や NGO などによりアライアンスにも参加していきたいと考えています。